

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2192200018		
法人名	株式会社 共寿		
事業所名	グループホーム南濃「福寿苑」		
所在地	岐阜県海津市南濃町松山4番代426-1番地		
自己評価作成日	平成28年1月12日	評価結果市町村受理日	平成28年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=ion_kouhyou_detai_2015_022_kani=true&amp;ji_gyosvoCd=2192200018-00&amp;PrEfCd=21&amp;VerSj.onCd=022">http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=ion_kouhyou_detai_2015_022_kani=true&amp;ji_gyosvoCd=2192200018-00&amp;PrEfCd=21&amp;VerSj.onCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成28年2月25日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

当事業所では四季折々の季節の行事を大切にしています。ふだん屋内で過ごすことの多い利用者様が季節のうつろいを実感できるように、フロアや玄関ホールも季節に応じた飾り付けや利用者様の作品を展示しています。また誕生日会や外食、定期的な保育園児の訪問など、利用者様にとって気分転換や楽しみを持つ機会を設けています。時には外食や外出が心地よい刺激となり、これをきっかけとして生活の活性化、機能回復や向上に繋がることがあります。当事業所では各ユニットで年間目標を立て、支援、実践に取り組んでいます。また職員も個々に年間目標を立て、利用者様が施設理念に基づいた暮らしを送る(温かい環境、雰囲気の中で自分らしく生活する)ことができるよう支援に努めています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

管理者・職員共に、事業所の理念の実践に取り組んでいる。利用者の意見を聞きながら、年間行事計画に外出・レクリエーション・季節を活かした行事など、楽しみを多くする工夫をしている。買い物は、地域の店を利用し店員さんとも顔なじみになり、声かけ合う場面が多い。楽しみの外食は、利用者にあわせたメニューや特別席など相談できる関係にもなっている。職員一人ひとりがケアに対して年間目標を立て、利用者の想いをくみ取り、笑顔が見られるサービスの支援ができるよう努力している。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を毎月の会議時に全員で唱和、さらに事業所内各所に貼り、理念の共有、ケアの実践に努めている。また、ユニットでは年間目標を作り、朝夕の申し送り時に唱和している。職員も個々に年間目標を作り実践に努めている	理念を目に付くところに掲示し、唱和して確認している。ユニット毎・職員一人ひとりが年間目標を立て、書面にて振り返りながら実践に努めている。管理者は、会議時に職員の表情や動作などの気づきを話し合い共に理念の共有に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者の必要とする物品と一緒に近隣の店へ買い物に行ったり、受診の帰りに喫茶店に寄ることがある。地域のつながりとしては、民生委員や福祉推進委員を通して情報の発信や交流について話し合っている	地域住民と気安く声をかけあっている。野菜づくりを教わったり、民生委員の紹介でボランティアの訪問(ギター・習字)や、祭りには子供神輿が訪れて楽しんでいる。子供会の諸行事に参加する話が進んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	電話や訪問などの問い合わせには、共感的姿勢で傾聴し、支援の方法やアドバイスを含めた情報提供を行っている。おとしは地域のスーパーで「介護相談会」を開催し地域の人々の相談に乗る機会を設けた		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月に開催している。行政、地域、家族とさまざまな分野から出席、情報提供や意見交流があり事業所のサービス向上に役立てている	事業所の現状報告をしている。メンバーから質問や意見がある。消防署・交番からも参加がある。自治会行事計画(子ども会行事)に組み込んでもらう案など活発に意見が出ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市内に系列事業所が5つあり、市町村担当との連携は総ホーム長が統括している。その他に市の介護支援連絡会で市町村担当者と連携を図る機会がある。	困難事例・料金未回収・更新手続きなどに、月1回以上は出向き相談や指導を受けながら協力関係を深めている。又、行政から緊急入居の相談を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に内部研修を行い、職員に周知徹底している。離床センサー、柵の位置なども適時見直しを行い、本当に必要か他に手だてを考え、「身体拘束をしない」を常に意識したケアに取り組んでいる。玄関は日中施錠せず開放し、ユニット間の扉も自由に行き来できる	異食行為がありつなぎ服を着用している。安全の為、服薬で対応するか、つなぎ服を着用するか、医師と相談したり職員間で幾度も話し合った結果服の着用になっている。しかし、身体拘束の法令による経緯・手続きの書面がない。又家族の同意も口頭のみになっている。現在、落ち付いてきたので近日中に私服に着替える予定である。	身体拘束をする上の手続きを書面に整理されたい。又、身体拘束廃止について、全職員が再度学習し、話し合いが望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ざされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の関わりの中で注意してケアにあたり、必要に応じて個別または全体で研修を行い、職員に周知徹底している。言葉の虐待(禁句)においては、全職員に禁句リストを配布し防止に努めている		

グループホーム南濃「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市の介護支援専門員連絡会の研修に参加し、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、必要に応じて内部研修を行うようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、事業所のケアや取組み、退所を含めた対応可能な範囲について説明を行っている。又、内容に変更が生じた場合には、そのつど説明し、同意を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時に、ユニットの職員とは別に看護師、ケアマネも意見や要望を聞く機会を持っている。(訪問の多い土日は、どちらかが勤務)他にアンケートの実施や意見箱の設置など取り組んでいる	家族の訪問時に、行事の写真を紹介し近況や状態を知らせながら意見を聞いている。特に訪問の多い土・日は、対応できる職員を配置し意見や要望がゆっくり聞ける体制をとっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、職員が気軽に意見や相談、要望を言える関係作りに努めている。また、職員による自己評価表の作成、個別面談の他に随時事務所で話を聞く機会を持っている	普段は管理者が時間を見つけて声かけして聞いている。年2回、自己評価表を基に職員個別に聞く機会を作っている。備品の故障・購入の要望や提案が随時あり対応している。時には本社に検討依頼することもある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の研修会への参加及び資格取得に向けた支援を行い、人材育成、能力開発のための体制を示し、職場内で活かせるよう労働環境づくりに努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外研修や内部研修においては、年間計画を立て、全職員が研修内容を共有し知識・技術の向上に努めている。今年度は計画通りに外部研修を受ける機会を確保できていない		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネは、2ヶ月に1回市の介護支援専門員連絡会に出席し、同業者との交流を定期的に持っている		

グループホーム南濃「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には、必ず本人と事前面談を行う。安心を確保する為に笑顔で接し、心身の状態や家族関係、生活歴を把握する。本人の思いや要望を共感と受容の姿勢で傾聴し、安心して入所されるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安や要望を傾聴し理解した上で、当事業所における対応システム等を説明する。どのような対応ができるか話し合い、安心して利用できるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思い、状況等を確認し、改善に向けた支援の提案や相談を繰り返す中で、必要なサービスについては、検討していくよう努めている。(訪問マッサージの利用・歯科医の往診)		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩であることをいついかなる時も忘れずに、本人の話に耳を傾け、時には相談に乗ってもらうなど、支え合い、助け合いながら共に生活が送れるよう場面づくりや声かけに努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族に日々の暮らしの出来事や気づきの情報を伝え、共有している。家族の思いに寄り添い、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支援する関係であることを認識し、関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人との電話での交流や面会がある。本人が希望時は、お預かりしている携帯電話から掛けたり、家族の協力のもと馴染みの場所に出かけるなど関係の継続を支援している	近隣の方や同級生の訪問がある。遠方からや突然の訪問には特別の喜びがみられ、丁寧にもてなし又来てくださるよう話している。利用者の話から、家族に協力を得て馴染みの喫茶店に出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中で利用者同士の関係を把握し、状況に応じ職員が間に入る。利用者同士の交流の場として月に数回行事を催し、またほぼ毎日レクの時間を設け、利用者同士がお互いに支え合える関係作りを支援している		

グループホーム南濃「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退後も本人や家族の相談があった場合、いつでもサポートし良好な関係を保つよう努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や関わりの中で、本人の希望や意向を把握する。関わりが困難な場合は、様子や表情から把握に努めたり、本人にとって最適な支援ができるように家族と協力し、本人本位の視点にたち検討している	夫婦が違う施設に入居しているので合いたい意向を聞き、家族と相談し面会支援をした。意向に沿うよう空き室待ちである。思いを書き留めたり、家族に繋いだり、聞く努力と共に叶えるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族・知人との会話、聞き取りなどの情報を元にアセスメントシートを作成し、これまでの暮らし、生活歴を職員全員が把握できるように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの言動や身体状況の移り変わりを毎日個別記録に記入し、更に申し送り(ノート、毎日のメモに記載)を徹底することで、職員全員が把握できるように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回、または必要時モニタリングを行い、課題の抽出、ケアについての検討・見直しなど行う。本人、家族、医療機関など必要な関係者と話し合い、介護計画を作成している	担当職員がモニタリングしてユニット毎に検討している。訪問時に家族の意向をたずね、医師の意見も取り入れ介護計画を作成している。本人の意向で訪問マッサージを組み込んで効果を挙げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の日々の様子や状況、ケアの内容など個別記録に記入し、口頭や書面での申し送りで職員間の情報の共有、把握に努めている。介護計画においては、毎月のモニタリングに情報を反映し、現状に即して見直している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況や要望に応じて、外出支援や入退院時のフォロー、訪問マッサージの利用、受診の援助、買い物支援ほか取り組んでいる		

グループホーム南濃「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議時に、自治会長や民生委員、市役所・消防署が出席し、地域の周辺情報や支援に関する情報交換、協力関係を築いている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望のかかりつけ医の受診を継続している。受診結果は個別記録に残し、職員間で共有している。家族は、同行または後で看護師から報告を受け常に受診結果を把握できている	家族・本人の希望に合わせているが、通院が大変と協力医に変わる利用者が多い。かかりつけ医の受診には口頭や文章で状態を知らせている。時には、看護師が同行し適切に情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は、日々の関わりの中で一人ひとりの表情や様子の変化に気づき、異常の早期発見に努めている。異常時は直ちに看護師に報告し、また不在時も職員と看護師は連絡しあい、適切な医療対応に努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はサマリーを作成し、利用者の情報提供を行う。また看護師は随時病院に顔を出し、本人の状態を把握している。家族や主治医、病院関係者と情報交換を行い、速い段階で退院できるように努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、事業所でできること、希望があれば施設で最期を迎えることができることを説明する。また本人や家族の意向を踏まえ、医師、看護師、職員で連携をとり、随時意志確認をしながら支援に取り組んでいる。事業所では、定期的に看取りケアの研修を行っている	契約時に事業所の指針を説明している。看取りの希望者には、同意書を取り交わしている。本人の状態にあわせ、医師が中心になって、家族・事業所ともその都度、その都度話し合いながら支援している。職員には適切な対応を看護師が指導している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	いざという時に迅速な対応が出来るように救急法や蘇生術の内部研修を定期的に行い、急変時や事故発生時に備えている。また適切に対応できるように目の付くところにマニュアルが貼りだしてある		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	煙を発生、夜間想定などの避難訓練を実施。地域の役員も訓練に参加しているが近隣の住民参加はいまだ実現できていない。山崩れや水害など自然災害時の避難や対応は、運営推進会議で地域の役員、行政と話し合っている	避難訓練は夜間想定も含め年2回開催している。運営推進会議のメンバーが参加協力している。訓練後の消防署の意見をふまえ職員間で振り返りを行っている。近隣住民の協力への声かけが出来ていない。	災害時の地域住民の協力は不可欠である。運営推進会議のメンバーの口添えや、又、自治会の集まりなどに出向き、事業所を知ってもらい協力を得られるよう期待する。

グループホーム南濃「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄など介助の場面で、自尊心に配慮した声かけや対応を行っている。内部研修を行う、禁句リストの配布、介護計画書に挙げるなど職員が常に意識を持つように努めている	慣れや親しさから発する言葉使いには、特に注意し合っている。「禁句リスト」を各自が目を通し意識して対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中で利用者が思いや意向を気軽に言えるような雰囲気、関係作りに努めている。自己決定の困難な場合もあるが、できるだけ引き出せるようなコミュニケーションを心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりに合ったペースで、その人らしく過ごせるように本人の希望を大切にしている。状況に応じてその都度本人と話し合い、希望に沿えるよう努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月美容師が訪問し、本人と相談しながら希望に沿った髪型にカットしたり次月に見合わせたりしている。服装においては、起床時や外出時など、本人と職員が相談して一緒に選んでいる		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	アセスメントシートを作成して一人ひとりの好みを把握する。職員も利用者と同じテーブルで会話を交えて楽しく昼食を摂っている。できるだけ自分の力で食事ができるように箸、スプーン、器など本人に合った物をそれぞれ適切に用意している	日常会話から好みや希望を聞きながら、ユニット毎の当番職員が冷蔵庫の食材で調理している。食べられない食材は代替している。職員も一緒にテーブルを囲み、利用者から旬の食材を活かした料理を教わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は個別記録に記入し把握する。定期的に栄養士に献立を見てもらい、栄養バランスなど管理指導を受けている。食事の形状、軟らかさは一人ひとりに応じて調整し、水分は食事以外でも飲む機会を持つように支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態、有する力に応じて、準備、声かけ、見守り、一部介助など行い、口腔内の清潔保持に努めている。また必要に応じて定期的に歯科往診を受け、義歯の調整や口腔ケア指導を仰いでいる		

グループホーム南濃「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄状況、パターンを把握し、必要に応じた支援を行う。車いす使用、自力で立てない利用者も日中は介助にてトイレで排泄される	立位が不安定な利用者には二人で介助しながら、昼間は全員トイレ誘導している。尿意のある方は、おむつをはずし自立になるよう介護計画に入れ支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別記録と申し送りにて排泄状況を確認、把握し、本人に負担無く早期に便秘が解消できるように支援する。予防として、食事、水分摂取や運動など考慮している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間帯や温度など一人ひとりの希望、こだわりに合わせて支援している。また利用者と職員が1対1で向き合い、楽しく語り合う場でもある。重度の利用者は機械浴で入浴できる	利用者一人ひとりの希望(順位・湯温・時間)を優先し叶えている。1対1の入浴時間は普段聞かない本音の話しが聞け、気づきは記録に残している。笑顔で話し、楽しい雰囲気をつくり、リラックスできるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその日の体調、気分を考慮し、本人のペースで安心して休めるように空調管理、見守りなど支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、副作用、用法、用量は、個別ファイルにて把握する。服薬の支援は状況に応じて行い、症状の変化は確認に努め、随時看護師に報告している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの好きなことや趣味を把握し、個々に合ったレクを提供したり、全員で楽しめる歌やゲームを支援している。時には職員と一緒に軽度の家事に取り組んでいる		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望時や天気の良い日は屋外に出て、散歩したり、ベンチに腰かけ日向ぼっこや玄関の花を觀賞する。また年間行事計画を作り、ボランティアの協力の下、季節の行事や誕生会に合わせ外出支援(外食)を行っている	近所の店への買い物を楽しみにしている。店員さんとも顔なじみになり声をかけてくれる。外食も店側の協力で特別メニューやおまけのサービスもあり利用者には楽しみの外出である。急な外出希望にも時間を調整して対応している。	



グループホーム南濃「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談の上、本人に了承を得た上で金銭は事務所で預かる。必要な物品は、利用者と一緒に買い物に出かける、または職員が希望を聞き代わりに購入する		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、本人の希望に応じて適切な時間にかけることができる。手紙が届いた時は必ず本人に渡し、こちらから出す時は本人に代わり投函するなど支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりが快適に過ごせるよう席の位置、温度調整など配慮する。玄関、フロアは季節に応じた手作りの物や利用者の作品などを飾り、行事の写真は車いすの利用者も見やすい高さに貼り出している。	ユニット毎に季節感や利用者の席を工夫している。仲良し同士話しやすい席を用意したり、ソファに一人昼寝したり、日当たりのよい廊下で読書したりするなど過ごしやすい環境を作っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを観たり他の利用者や職員とおしゃべりが出来るようにリビングにソファを用意している。また、和室においても、職員と会話を交えながら洗濯物を畳む姿や利用者同士が歓談する場面が見られる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者が居心地よく過ごせるように家具、ベッドの配置など配慮している。また本人の希望や身体状況に応じて、畳やカーペットを使用できる。壁にはお誕生日や行事の写真、習字の作品などが貼り出している	各室に空気清浄機を設置している。位牌・家族写真・化粧品を持参している。ベッドの向き・畳を敷くなど本人と相談しながら配置している。本人の動線に合わせて空間を作っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの心身の状況に合わせて、転倒事故などにつながる障害物の撤去など安全な環境を整え、出来るだけ自立した生活が送れるように支援している		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192200018		
法人名	株式会社 共寿		
事業所名	グループホーム南濃「福寿苑」		
所在地	岐阜県海津市南濃町松山4番代426-1番地		
自己評価作成日	平成28年1月12日	評価結果市町村受理日	平成28年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detai_1_2015_022_kani=true&amp;ji_gyosyoCd=2192200018-00&amp;PrEfCd=21&amp;Versi_onCd=022">http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detai_1_2015_022_kani=true&amp;ji_gyosyoCd=2192200018-00&amp;PrEfCd=21&amp;Versi_onCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成28年2月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を毎月の会議時に全員で唱和、さらに事業所内各所に貼り、理念の共有、ケアの実践に努めている。また、ユニットでは年間目標を作り、朝夕の申し送り時に唱和している。職員も個々に年間目標を作り実践に努めている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者の必要とする物品と一緒に近隣の店へ買い物に行ったり、受診の帰りに喫茶店に寄ることがある。地域のつながりとしては、民生委員や福祉推進委員を通して情報の発信や交流について話し合っている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	電話や訪問などの問い合わせには、共感的姿勢で傾聴し、支援の方法やアドバイスを含めた情報提供を行っている。おとしは地域のスーパーで「介護相談会」を開催し地域の人々の相談に乗る機会を設けた		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月に開催している。行政、地域、家族とさまざまな分野から出席、情報提供や意見交流があり事業所のサービス向上に役立っている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市内に系列事業所が5つあり、市町村担当との連携は総ホーム長が統括している。その他に市の介護支援連絡会で市町村担当と連携を図る機会がある。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に内部研修を行い、職員に周知徹底している。離床センサー、柵の位置なども適時見直しを行い、本当に必要か他に手だてを考え、「身体拘束をしない」を常に意識したケアに取り組んでいる。玄関は日中施錠せず開放し、ユニット間の扉も自由に行き来できる		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の関わりの中で注意してケアにあたり、必要に応じて個別または全体で研修を行い、職員に周知徹底している。言葉の虐待(禁句)においては、全職員に禁句リストを配布し防止に努めている		

グループホーム南濃「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市の介護支援専門員連絡会の研修に参加し、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、必要に応じて内部研修を行うようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、事業所のケアや取組み、退所を含めた対応可能な範囲について説明を行っている。又、内容に変更が生じた場合には、そのつど説明し、同意を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時に、ユニットの職員とは別に看護師、ケアマネも意見や要望を聞く機会を持っている。(訪問の多い土日は、どちらかが勤務)他にアンケートの実施や意見箱の設置など取り組んでいる		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、職員が気軽に意見や相談、要望を言える関係作りに努めている。また、職員による自己評価表の作成、個別面談の他に随時事務所で話を聞く機会を持っている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の研修会への参加及び資格取得に向けた支援を行い、人材育成、能力開発のための体制を示し、職場内で活かせるよう労働環境づくりに努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外研修や内部研修においては、年間計画を立て、全職員が研修内容を共有し知識・技術の向上に努めている。今年度は計画通りに外部研修を受ける機会を確保できていない		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネは、2ヶ月に1回市の介護支援専門員連絡会に出席し、同業者との交流を定期的に持っている		

グループホーム南濃「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には、必ず本人と事前面談を行う。安心を確保する為に笑顔で接し、心身の状態や家族関係、生活歴を把握する。本人の思いや要望を共感と受容の姿勢で傾聴し、安心して入所されるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安や要望を傾聴し理解した上で、当事業所における対応システム等を説明する。どのような対応ができるか話し合い、安心して利用できるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思い、状況等を確認し、改善に向けた支援の提案や相談を繰り返す中で、必要なサービスについては、検討していくよう努めている。(訪問マッサージの利用・歯科医の往診)		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩であることをいついかなる時も忘れずに、本人の話に耳を傾け、時には相談に乗ってもらうなど、支え合い、助け合いながら共に生活が送れるよう場面づくりや声かけに努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族に日々の暮らしの出来事や気づきの情報を伝え、共有している。家族の思いに寄り添い、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支援する関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の理解、協力のもと、旧知の友人や近所の方が気軽に会いに来れるよう支援している。入所時に説明し、家族、本人の意思を確認している。馴染みの人の訪問時は、以後も気軽に来れるように居心地良い雰囲気作りに努めている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中で利用者同士の関係を把握し、状況に応じ職員が間に入る。利用者同士の交流の場として月に数回行事を催し、またほぼ毎日レクの時間を設け、利用者同士がお互いに支え合える関係作りを支援している		

グループホーム南濃「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退後も本人や家族の相談があった場合、いつでもサポートし良好な関係を保つよう努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や関わりの中で、本人の希望や意向を把握する。関わりが困難な場合は、様子や表情から把握に努めたり、本人にとって最適な支援ができるように家族と協力し、本人本位の視点にたち検討している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族・知人との会話、聞き取りなどの情報を元にアセスメントシートを作成し、これまでの暮らし、生活歴を職員全員が把握できるように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの言動や身体状況の移り変わりを毎日個別記録に記入し、更に申し送り(ノート、毎日のメモに記載)を徹底することで、職員全員が把握できるように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回、または必要時モニタリングを行い、課題の抽出、ケアについての検討・見直しなど行う。本人、家族、医療機関など必要な関係者と話し合い介護計画を作成している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の日々の様子や状況、ケアの内容など個別記録に記入し、口頭や書面での申し送りで職員間の情報の共有、把握に努めている。介護計画においては、毎月のモニタリングに情報を反映し、現状に即して見直している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況や要望に応じて、外出支援や入退院時のフォロー、訪問マッサージの利用、受診の援助、買い物支援ほか取り組んでいる		

グループホーム南濃「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議時に、自治会長や民生委員、市役所・消防署が出席し、地域の周辺情報や支援に関する情報交換、協力関係を築いている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望のかかりつけ医の受診を継続している。受診結果は個別記録に残し、職員間で共有している。家族は、同行または後で看護師から報告を受け常に受診結果を把握できている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は、日々の関わりの中で一人ひとりの表情や様子の変化に気付き、異常の早期発見に努めている。異常時は直ちに看護師に報告し、また不在時も職員と看護師は連絡しあい、適切な医療対応に努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はサマリーを作成し、利用者の情報提供を行う。また看護師は随時病院に顔を出し、本人の状態を把握している。家族や主治医、病院関係者と情報交換を行い、速い段階で退院できるように努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、事業所でできること、希望があれば施設で最期を迎えることができることを説明する。また本人や家族の意向を踏まえ、医師、看護師、職員で連携をとり、随時意志確認をしながら支援に取り組んでいる。事業所では、定期的に看取りケアの研修を行っている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	いざという時に迅速な対応が出来るように救急法や蘇生術の内部研修を定期的に行い、急変時や事故発生時に備えている。また適切に対応できるように目の付くところにマニュアルが貼りだしてある		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	煙を発生、夜間想定などの避難訓練を実施。地域の役員も訓練に参加しているが近隣の住民参加はいまだ実現できていない。山崩れや水害など自然災害時の避難や対応は、運営推進会議で地域の役員、行政と話し合っている		

グループホーム南濃「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介護計画書にも掲げ、利用者の自尊心に配慮した対応(関わり方、ケア)を心がけている。プライバシーは居室入り口に「のれん」を設置するなど個別に対応している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中で利用者が思いや意向を気軽に言えるような雰囲気、関係作りに努めている。自己決定の困難な場合もあるが、できるだけ引き出せるようなコミュニケーションを心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりに合ったペースで、その人らしく過ごせるように本人の希望を大切にしている。状況に応じてその都度本人と話し合い、希望に沿えるよう努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月美容師が訪問し、本人と相談しながら希望に沿った髪型にカットしている。服装においては、好きな衣類を選び、肌の手入れなどその人らしい身だしなみができるよう家族の協力を得ながら支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	アセスメントシートを作成して一人ひとりの好みを把握する。職員も利用者と同じテーブルで会話を交えて楽しく昼食を摂っている。できるだけ自分の力で食事ができるように箸、スプーン、器など本人に合った物をそれぞれ適切に用意している		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は個別記録に記入し把握する。定期的に栄養士に献立を見てもらい、栄養バランスなど管理指導を受けている。食事の形状、軟らかさは一人ひとりに応じて調整し、水分は食事以外に10時15時入浴後と飲む機会を持つように支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態、有する力に応じて、準備、声かけ、見守り、一部介助など行い、口腔内の清潔保持に努めている。また必要に応じて定期的に歯科往診を受け、義歯の調整や口腔ケア指導を仰いでいる		



グループホーム南濃「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄状況、パターンを把握し、必要に応じた支援を行う。日中は自力で立てない利用者も二人介助でトイレで排泄を支援する。また尿意便意のない利用者の場合、本人の言動などからサインに気づくよう努めている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別記録と申し送りにて排泄状況を確認、把握し、本人に負担無く早期に便秘が解消できるように支援する。食事、水分摂取や運動など考慮して自然排便を促したり、胃腸に働きかける服薬など取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間帯や温度、入浴方法など一人ひとりの希望、こだわりに合わせて支援している。また利用者と職員が1対1で向き合い、楽しく語り合う場もある。重度の利用者は機械浴で入浴できる		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその日の体調、気分を考慮し、本人のペースで安心して休めるように空調管理、見守りなど支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、副作用、用法、用量は、個別ファイルにて把握する。服薬の支援は状況に応じて行い、手渡しではなく職員が利用者の口の中に入れ確認している。誤薬防止の為、2重にチェック。症状の変化は早期に気づくよう努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの好きなことや趣味を把握し、男女問わず全員で楽しめる歌やゲームを支援している。時には職員と一緒に軽度の家事に取り組んでいる		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間行事計画を作り、季節の行事や誕生会に合わせ外出・外食支援を行っている。本人希望や家族の要望に沿って、屋外の散策や喫茶店にでかけるなど気分転換の機会を持っている		

グループホーム南濃「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談の上、本人に了承を得た上で金銭は事務所で預かる。必要な物品は、利用者と一緒に買い物に出かける、または職員が希望を聞き代わりに購入する		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、本人の希望に応じて適切な時間にかけることができる。手紙が届いた時は必ず本人に渡し、こちらから出す時は本人に代わり投函するなど支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりが快適に過ごせるよう席の位置、温度調整など配慮する。玄関、フロアは季節に応じた手作りの物や利用者の作品などを飾り、行事の写真は車いすの利用者も見やすい高さに貼り出している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを観たり他の利用者や職員とおしゃべりが出来るようにリビングにソファを用意している。また、和室においても、職員と会話を交えながら洗濯物を畳む姿や利用者同士が歓談する場面が見られる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者が居心地よく過ごせるように家具、ベッドの配置など配慮している。また本人の希望や身体状況に応じて、畳やカーペットを使用できる。壁にはお誕生日や行事の写真、習字の作品などが貼り出している		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの心身の状況に合わせて、転倒事故などにつながる障害物の撤去など安全な環境を整え、出来るだけ自立した生活が送れるように支援している		